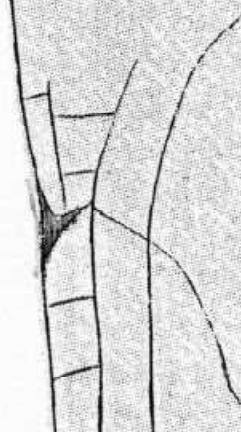


# すずむし

Vol. 11

No. 1



倉敷昆虫同好会

1968 Sep.

## 目 次

表紙デザイン	友野 良一	
都窪郡福田村産蛾類目録	榎本 精二	1
毛無山村近採集小記	秋山 博志	3
総社市の蝶(Ⅰ)の訂正追加について	前田 喜四雄	6
おとしぶみ		7
トランシジミ鬼ヶ岳で記録	近藤 光宏	7
トランシジミを黒田で初記録	近藤 光宏	7
黒田のウスイロとウラジロ	近藤 光宏	7
ウラキンシジミ片山線苦木付近で記録	近藤 光宏	7
総社市長良にゴイシジミ産す	前田 喜四雄	7
オオクチブトカメムシに訂正	小野 洋	7
黒坂～花見間でアシアカカメムシを記録	近藤 光宏	7
目録にカシルリオトシブミを追加	小野 洋	7
シリアゲコバチの記録について	近藤 光宏	7
大佐町定藤でオオツノトンボを採集	秋山 博志	9
総社市のアオサナエ	秋山 博志	9
総社市八代におけるハツチヨウトンボのその後	近藤 光宏	9
隨筆「くわがたむし」	赤校 一弘	10
会員移動		10
編集後記		11

# 都窪郡福田村産蛾類目録

楳 本 精 二

## 1. 諸 言

都窪郡福田村における蝶類の分布については「すずむし」第10巻第1号で説明した通りであり、其の際の約束に従い蛾類の目録について説明申し上げます。

私の蛾類蒐集は歴史も浅く、資料も少ないので完全なものではありませんが、転勤のため福田村を離れることになりましたので一応之迄の記録を整理するため発表致します。

蒐集期間は1959年6月より1960年9月までの間で、標本の同定は、北陸館発行原色昆虫大図鑑I(蛾篇)によって行い、同定の不確実なもの、出来なかったものは一切省略した。標本は都窪郡福田中学校及び児島郡第一藤田小学校に寄贈し、保管せられています。

蒐集場所は都窪郡福田村を主とし、一部都窪郡妹尾町および児島郡藤田村を含み、街灯の灯火採集を主とし、樹液採集、昼間のスワイーピングによった。

## 2. 目 錄

A. スズメガ科							
1. メンガタスズメ	60.	9.	15	2 3.	シロヒトリ	59.	8. 24
2. エビガラスズメ	60.	9.	23	2 4.	サラサヒトリ	60.	6. 13
3. シモフリスズメ	59.	7.	6	E-3	ヤガ科(ケンモン亞科)		
4. モモスズメ	59.	7.	15	2 5.	シロハラケンモン	59.	7. 6
5. ウンモンスズメ	59.	6.	30	2 6.	サクラケンモン	60.	7. 2
6. ウチスズメ	59.	7.	4	2 7.	シマケンモン	60.	6. 13
7. オオスカシバ	59.	7.	6	E-4	ヤガ科(モンヤガ亞科)		
8. ホシホウジャク	59.	6.	27	2 8.	タマナヤガ	60.	5. 18
9. セスジスズメ	59.	7.	6	2 9.	カブラヤガ	60.	4. 27
1 0. イッポンセスジスズメ	59.	6.	30	3 0.	クロギシギンヤガ	59.	7. 2
B. ヤママユガ科				E-5	ヤガ科(ヨトウガ亞科)		
1 1. シンジュサン	59.	6.	21	3 1.	チヤイロキリガ	60.	4. 23
1 2. ウスタビガ	59.	11.	10	3 2.	フタオビキヨトウ	60.	5. 18
1 3. ヤママユ	59.	10.	5	3 3.	スジクロキヨトウ	60.	6. 12
1 4. クサン	59.	10.	5	3 4.	アワヨトウ	59.	7. 6
C. カノコガ科				3 5.	ノヒラキヨトウ	60.	4. 23
1 5. カノコガ	60.	7.	2	3 6.	ナカスジキヨトウ	60.	6. 20
1 6. キハダカノコ	59.	6.	12	E-6	ヤガ科(カラスヨトウ亞科)		
D. コブガ科				3 7.	ベニモンヨトウ	60.	5. 14
1 7. クロスジシロコブガ	60.	6.	10	3 8.	シロスジアヨトウ	60.	7. 10
E-1 ヒトリガ科(コケガ亞科)				3 9.	スジキリヨトウ	60.	5. 15
1 8. アカスジシロコケガ	59.	6.	26	4 0.	ノコメセダカヨトウ	59.	6. 29
1 9. ハガタベニコケガ	60.	6.	22	4 1.	ギンモンアカヨトウ	60.	5. 15
2 0. ゴマダラキコケガ	59.	6.	19	4 2.	マエテノヨトウ	59.	10. 29
E-2 ヒトリガ科(ヒトリガ亞科)				4 3.	ハスモノヨトウ	60.	6. 2
2 1. アカヒトリ	59.	6.	19	4 4.	ムラサキツマキリヨトウ	59.	7. 15
2 2. キハラゴマダラヒトリ	59.	7.	4	E-7	ヤガ科(ヨヤガ亞科)		
				4 5.	フサヤガ	60.	3. 30

E-8 ヤガ科(コヤガ亞科)				
46. ヨモギコヤガ	60.	6. 26	81. フタトビスジナミシヤク	60. 3. 6
E-9 ヤガ科(キンウワバ亞科)			82. トビスジヒメナミシヤク	60. 2. 25
47. タマナキンウワバ	60.	6. 25	I-4 シヤクガ科(エダシヤク亞科)	
48. ミツモンキンウワバ	60.	7. 2	83. ヒトスジマダラエダシヤク	59. 7. 2
49. ギンスジキシウワバ	60.	6. 2	84. ユウマダラエダシヤク	60. 5. 25
E-10 ヤガ科(シタバガ亞科)			85. フタテンオエダシヤク	59. 6. 19
50. ワモンキンタバ	59.	6. 30	86. トビカギバエダシヤク	59. 7. 15
51. コガタキンタバ	60.	7. 11	87. ヒロオビトンボエダシヤク	99. 6. 21
52. カキバトモエ	59.	6. 27	88. ツマトビキエダシヤク	60. 7. 1
53. ヤマトモエ	59.	7. 26	J イラガ科	
54. シロスジトモエ	59.	6. 12	89. アオイラガ	60. 6. 13
55. オオトモエ	59.	7. 26	K マダラガ科	
56. アシブトクチバ	59.	7. 1	90. ホタルガ	59. 6. 22
57. ニセウンモンクチバ	59.	6. 25	L ボクトウガ科	
58. アカエグリバ	59.	7. 26	91. ゴマフボクトウ	59. 6. 30
59. キヅマアツバ	60.	6. 5	M-1 メイガ科(ツトガ亞科)	
60. テンクロアツバ	60.	6. 12	92. マエキツトガ	660. 6. 17
61. クロテンカバアツバ	60.	6. 12	93. ニカメイガ	59. 7. 2
E-11 ヤガ科(クルマアツバ亞科)			94. ツトガ	59. 7. 2
62. ヒゲブトクロアツバ	60.	5. 15	M-2 メイガ科(フトメイガ亞科)	
63. トビスジアツバ	60.	6. 2	95. トサカフトメイガ	59. 7. 4
F シヤチホコガ科			96. アオフトメイガ	60. 6. 13
64. セダカシヤチホコ	59.	7. 6	M-3 メイガ科(トガリメイガ亞科)	
65. ナカグロモクメ	60.	5. 19	97. キベリトガリメイガ	60. 5. 29
G ドクガ科			M-4 メイガ科(シマメイガ亞科)	
66. スゲドクガ	60.	6. 22	98. カシノシマメイガ	60. 6. 11
67. マイマイガ	60.	7. 2	99. アカシマメイガ	59. 7. 10
68. モンシロドクガ	60.	6. 23	M-5 メイガ科(ノメイガ科)	
69. ドクガ	60.	6. 24	100. オオヤマメイガ	59. 6. 28
70. チヤドクガ	59.	6. 21	101. マダラミズメイガ	60. 5. 14
H カレハガ科			102. ヒメマダラミズメイガ	60. 6. 5
71. マジカレハ	59.	7. 10	103. イネコミズメイガ	60. 5. 17
I-1 シヤクガ科(アオシヤク亞科)			104. キイロノメイガ	60. 5. 12
72. ウスアオアヤシヤク	59.	7. 26	105. ミツテンノメイガ	59. 9. 19
73. ホソバハラアカアオシヤク			106. クロスジノメイガ	59. 8. 5
			107. モノメイガ	59. 8. 9
74. ヨツメアオシヤク	59.	7. 6	108. シロアシクロノメイガ	59. 7. 24
75. ナミガタウスキアオシヤク			109. ツチイロノメイガ	60. 6. 15
			110. キムジノメイガ	59. 9. 19
I-2 シヤクガ科(ヒメシヤク亞科)			111. ユウグモノメイガ	60. 4. 22
76. コベニスジヒメシヤク	59.	7. 2	112. トガリキノメイガ	60. 5. 12
77. ウンモンオオンロヒメシヤク			N ヒメハマキガ科	
			113. フタツメヒメハマキ	60. 5. 15
78. キトガリヒメシヤク	60.	5. 6	O スガ科	
79. マエキヒメシヤク	59.	6. 21	114. コナガ	60. 6. 19
I-3 シヤクガ科(ナミシヤク亞科)				

### 3. 結 語

以上種名の羅列に終ったが、小生の浅い歴史によるもので、之以上をなし得なかったことを皆様にお詫びする次第です。娘類は蝶類と異り、未だ解明せられない分野が多く、非常に研究がおくれて居り、県下における同好者も少いと思われるが、之を機会に活潑な研究発表を期待するものであります。

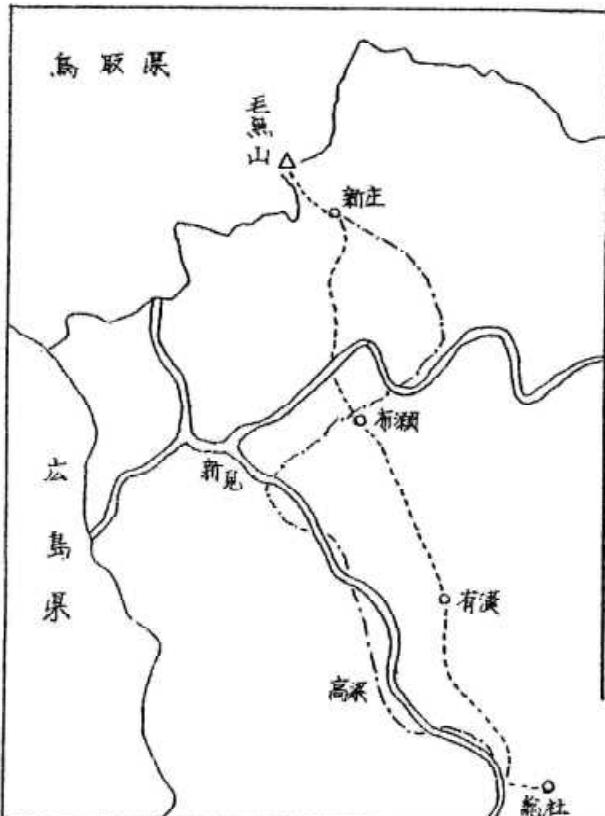
### 毛無山付近採集小記

秋 山 博 志

岡山県北部の昆虫諸調査の一端として我々が、前々から計画していた自転車旅行を7月31日から8月2日にかけて実施したのでその時の模様を業を主として報告しておきます。

調査の地域として吉野先生の意見を聞いて、又我々が十分?調査して一応毛無山付近と決めたが調査直前になって安東端夫氏によって、毛無山付近は一部報告されていたことが分った(すずむし Vol. 8 No. 3 P. 10 セセリチョウ科3種の新産地)そこで一応それの再確認ということで出發した。その報告のうちギンイチモンジセセリ、ホンチャバネセセリはこの調査で再確認することが出来たが、キバネセセリは採集することが出来なくて残念であった。総社から小坂部までは大した収穫もなかったので坂路峠の営林所を通過したあたりから書くが、連日犬飯に患まれず蟻も甲虫も少なかったので下らんことばかりを書くことにした。

営林所の宿舎を通過したのはあたりがもう薄暗くなつて来た頃であった。この宿舎では、昼間の仕事から帰った人達が懇から首を出して我々を元気づけてくれる。ここから新庄まで8km、林まで4km程であると聞いて一気に登ろうと思った。しかしこの宿舎に後で転がり込むとは想像もつかなかつたのである。とにかく我々はここを通過したのである。ところが行けども行けども坂道ばかりで少しあか行かないところで日はとっぷりと暮れそのまま中電灯が一つしか灯がつかないときているからまったくの手さぐりであった。遠くではサルの鳴声が聞こえて来る。又足元ではひきがえるが飛びはねて我々をびっくりさせる。途中オートバイでおじさんが子供をつれて坂道をおりてくるのに出会う。このおじさんに



-----は行き -----は帰りのコースを示す

道を訪ねて元気を出して自転車を押し上げる。それから数時間後ついに我々は峠を越すのに断念して元来た道を引き返した。坂道を下りてようやく営林所の灯が見えて来たときスピード余って横軸10mm程滑って橋の上でようやく止った。後は全くの真暗闇である。前田君が来て、前をみると落ちると新聞記事にでもなりそうな、谷川が口を開けていた。営林所に着くと気前よく宿泊させてくれる。そこで傷の手当てをして風呂に入った。こうしてようやく人間らしくなった二人はすぐ与へられた毛布にもぐり込んだ。翌朝セミの声に目を覚ます。外は曇っている。朝食を食べ(但し朝食はここのおばさんの好意でサービスしてくれた。ここでのもてなしは正に感謝感激であった。)十分ここの人達にお礼の言葉を言って山に働きに行く人達と出発した。途中材木を積み出しているところに出る。ここまでアオバセセリオオソノトンボ、甲虫少しひといったところである。ミヤマカラスアゲハらしき蝶が時たま飛ぶが後を見送るだけであった。そこらあたりから牛の糞に注意して坂道を登る。峠に登りつくまでにいくつかの糞を引っくり返したが前田君がダイコクコガネ2匹を探った外ツノコガネ、オオマグソコガネ、ゴホンダイコクコガネ等の普通種ばかりがうようよしていた。サルの声を聞きながらようやく峠に着いた。下りの道は、最近造ったばかりで石ころがやたらが多い。少し下りると前方に中国山脈の山々が朝霧に包まれて見えて来た。右側に谷を見下ろしながら自転車のブレーキを握る。標高が下って来ると田んぼが見え始める。道端にはコミスジ、キチョウ、モンキチョウ等が盛んに飛んでいる。新庄川の橋まで来ると新庄の町が見えて来る。小学校に着くと若い女の先生とおばさんが居た。衛生室を与えられてそこに荷物を運び込む。それから学校にいるおばさんの持つて来てくれたお茶を飲みながら簡単な食事をした。今日、まず毛無山のふもとまで行って見ようと12時40分小学校を出発した。滝の尻付近でルリタテハ、コミスジ、キチョウ、ミヤマアカネ、ナツアカネ、カツトンボ、ミヤマカワトンボ等を見る。発電所のところの急坂を上ると大きな滝がある。そこを見て自転車を押して行くとアカタテハ、コミスジ、キチョウ、コチャバネセセリが飛び出す。下り坂になってクロヒカゲ、ダイミョウセセリが多い。下り坂が終る、草原のあるところである期待をかけながら草原の中を歩く。まず期待通り前田君がギンイチモンジセセリを統いて僕がギンイチモンジセセリ、ホシチャバネセセリを三角紙に収める。道端にはゴインシジミも多い、ここからちょっと行ったところで前田君がウラナミアカシジミ、ハヤシミドリンジミを網にする。田浪付近の草原でオオウラギンヒョウモン、オオウラギンスジヒョウモン、ミドリヒョウモン、ウラギンヒョウモン、ギンイチモンジセセリを網にする。又このあたりの草原ではジャノメチョウがたくさん飛び出す。ここにあったカシワの木ではミズイロオナガシジミと、ウラナミアカシジミのぼろぼろを採集しただけであった。そこから1合目付近まで自転車で行き、そこから歩く。積んであった材木からウスイロトラカミキリ、エグリトラカミキリを毒びんに入れながら歩いて行くとトラフシジミがフラフラと飛んで来たので手でつかまえる。イカリモンガが多い。2合目まで来て引き返す。学校まで帰り夕食をこしらえる。夕食を食べ虫の整理をすると12時がなった。やがて時計の音を聞きながら深い眠りに落ちた。次の朝起きるとすぐ出発。毛無山のふもとまで自転車を走らせ付近の家に預ける。

1合目付近でキアゲハ、マシジミ、ホソバセセリ等を網にしながら杉の林まで来



る。この杉の林でアサギマダラを探集する。杉林を過ぎるとうっそうとしたブナの林でゼフィルスに注意したが一匹もいない。6合目付近でヒグランを拾った。少し前から風が大分強く吹いてまたガスもだんだん増えて採集も網を紡りながら、ヒメキマダラヒカゲ、アオバセセリ、クロヒカゲ等を網にしなければならない。ガスの為に8合目まで来てついに登頂を諦めて下山する。4合目付近でミヤマカラスアゲハを数回目撲したが採れない。2合目まで下りて花からクスペニカミキリ、シラホシカミキリを得る。小学校まで帰ると1時を過ぎていたのですぐ帰る用意をして、御世話になった小学校のおばさんに別れを告げて一路家路に向った。

-完-

### 採集品目録 「数字は個体数(目)は目撃」

鱗翅目		
セセリチョウ科		
ホソバセセリ	4	ヒメウラナミジャノメ 1
ダイミョウセセリ	4	ジャノメチョウ 6
アオバセセリ	3	コジャノメ 1
ギンイチモンジセセリ	3	ヒメジャノメ 1(前田採)
ヒメキマダラセセリ	2	クロヒカゲ 2
キマダラセセリ	1	ヒメキマダラヒカゲ 3
ヘリグロチャバネセセリ	1	キマダラヒカゲ 2(前田採)
スジグロチャバネセセリ	2(前田採)	タテハチョウ科
コチャバネセセリ	2	コミスジ 1
ホシチャバネセセリ	1	オオウラギンヒョウモソ 1
オオチャバネセセリ	(目 前田)	ウラギンヒョウモソ 1
イチモンジセセリ	1(前田採)	ミドリヒョウモソ 1
アゲハチョウ科		オオウラギンスジヒョウモソ 1
アオスジアゲハ	(目 前田)	イチモンジチョウ 2♀(前田採)
キアゲハ	1♀	アサマイチモンジ (目)
アゲハ	(目 前山)	ルリタテハ 3♂(前田採)
カラスアゲハ	1♂	ヒオドシチョウ 1♂(前田採)
ミヤマカラスアゲハ	(目)	アカタテハ 1♂(前田採)
オナガアゲハ	1♂(前田採)	コムラサキ (目 前田)
モンキアゲハ	(目)	サカハチチョウ (目 前田)
シロチョウ科		シジミチョウ科
キチョウ	2♂	ウラナミアカシジミ 1♂
スジグロシロチョウ	1♀	ミズイロオナガシジミ 1
スジボソヤマキチョウ	(目)	ハヤシミドリシジミ 1♀(前田採)
モンシロチョウ	(目)	トラフシジミ 1
ツマグロキチョウ	3	ゴイシシジミ 4
モンキチョウ	(目)	ベニシシジミ (目)
マダラチョウ科		ムラサキシジミ (目)
アサギマダラ	2♂	ヒメシジミ 1
テングチョウ科		ヤマトシジミ (目 前田)
テングチョウ	(目)	ルリシジミ (目 前田)
ウラギンシジミ科	—	ツバメシジミ 1
ウラギンシジミ	1♂	イカリモンガ科
ジャノメチョウ科		イカリモンガ 1
		蜻蛉目
		トンボ科

ミヤマアカネ	3	ヤマカミキリ	1
ナツアカネ	1	クスペニカミキリ	2
カワトンボ科		ウスイロトラカミキリ	3
カワトンボ	1	エグリトラカミキリ	1
ミヤマカワトンボ	1	ヒメヒゲナガカミキリ	1
脈翅目		トガリシロオビサビカミキリ	1
ツノトンボ科		シラホシカミキリ	1
オオツノトンボ	1	ヘリグロリンゴカミキリ	1 (前田採)
鞘翅目		ゴミムシダマシ科	
ハンミョウ科		ヒメスナゴミムシダマシ	1
ニワハングミョウ	3	ホタル科	
オサムシ科		ヒメボタル	1
オオオサムシ	1	ハムシ科	
コガネムシ科		イタドリハムシ	2
ヒメコガネ	1	ドロノキハムシ	1
Anomala rufocuprea		クロウリハムシ	1
var.. violacea		オトシブミ科	
Ohaus	1	ヒメクロオトシブミ	1
スジコガネ	1	チャイロチョッキリ	1
セマダラコガネ	2 (前田採)	ゴマダラオトシブミ	1 (前田採)
マメコガネ	2	ゾウムシ科	
ダイコクコガネ	1♂ 1♀ (前田採)	カツオゾウムシ	1
マグソコガネ	1	シラホシヒメゾウムシ	1
マルエンマコガネ	7	ゴミムシ科	
オオマグソコガネ	8	ハギキノコゴミムシ	1
ゴホンダイコクコガネ	2 ♂	オオキノコムシ科	
ツノコガネ	9 ♂ 7 ♀	クロチビオオキノコムシ	1 (前田採)
コメツキムシ科		コクメスト科	
ダンダラコメツキ	2	ゴマダラコクメスト	1 (前田採)
ルリツヤハダコメツキ	1	ハナノミ科	
キマダラコメツキ	1 (前田採)	クロハナノミ	1 (前田採)
カミキリムシ科		半翅目	
ニンフホソハナカミキリ	1 (前田採)	ヘリカメムシ科	
アカハナカミキリ	1 (前田採)	ツマキヘリカメムシ	3 (前田採)
ヨスジハナカミキリ	1 (前田採)	セミ科	
ゴマダラカミキリ	1	ヒグラシ	2 ♀ (前田採)

### 総社市の蝶(I)の訂正追加について

- (18) カラスアゲハ (追加)  
総社市長良 1961. 7. 18 1♂ 前田
- (24) モンシロチョウ (追加)  
総社高等学校 1961. 5. 24 1♀ 前田
- (58) キタテハ (追加加)  
総社市常盤橋付近 1961. 6. 3 1♂ 前田(幼虫も多数)

(72) コジャノメ *Mycalesis francisca* (追加)

総社市三須中林	1961. 5. 31	2♂	前田
〃 井山	1961. 5. 6.	1♂	〃
〃 長良	1959. 5. 18	1	〃

訂正

今後期出来る蝶からコジャノメを除く

記録はあるが疑問種からウラナミジャノメ、ウラキンシジミ、ウラゴマダラシジミを除く。

あとがき 16行目 普々→皆々  
18行目 られ→らせ

(前田喜四郎)

# おとしふみ

## トラフシジミ 鬼が岳で記録

夏休み中筆者の標本を整理していたところ本種春型の記録されていることがわかったので一応報告します。

去る1959年4月26日、町内会から小田郡宇戸村鬼が岳温泉へ行き、ツマキチョウ等と付近で採集したものである。

(近藤光宏)

## トラフシジミを黒田で 初記録

1961年7月2日筆者は1人、その日は会員有志による大山採集会を都合により中止した日で、なんとなく手持無沙汰であったが、たまりかねて、久々の黒田へ行くことにした。さっそく自家用車の整備にかかりオンボロスターの尻をたたいて、かっては、よく歩いたほこりたかき道をひとつ走り、坂の中腹に乗り上げたのは午前10時。山はだの様子が変わっているのにおどろき、闇葉樹のぶどう畑化していくのを一人寂しく思いながら、ネットをふっていたところ、本種夏型2頭を採集することができた。なお、県南部におけるこれまでの最近の記録を本誌にみると。

Vol. 17, No. 2 1957. 5. 3  
総社市豪渓 1頭 風早保男  
Vol. 10, No. 1 1960. 4. 29  
〃 長良 1〃 前田喜四郎  
Vol. 10, No. 1 1960. 5. 3  
〃 三須下林龜山頂上付近  
1〃 秋山博志  
等が知られている。(近藤光宏)

## 黒田のウスイロとウラジロ

1961年7月2日、トラフシジミを記録した日ウスイロオナガシジミ及びウラジロミドリシジミを、かぶ数は少ないが、よく繁茂しているナラガシワの付近で採集できたので当地のこととは、これまでに度々報告されているが、今年の記録として一応報告しておきます。(近藤光宏)

## ウラキンシジミ 片上線苦木 付近で記録

最近県南部における本種の記録は、目立って多くなっているが、筆者も、本会採集

会に参加して県南東部を探索中採集できたので、以下に報告します。

59.6.14 ウラキンシジミ 1頭  
片上鉄道苦木駅より東に約2kmの地点  
(近藤光宏)

### 総社市長良にゴイシシジミ産す

(1) 長良山は二つにわかれていてその北の山(通称城山 8.0m)の南側の山麓の池の上。

ここでは 1960.8.17 に 2頭採集、3頭目撲したが取らずにおいた(約20分間)。

(2) 前と同じ山の南東の山麓の池の横

これは光畠幸平君(総社東中学校2年)より報告があったのである。それによると 1960.9.2 網を持っていなかったのでとられなかつたが確實にゴイシのこと。  
これらのことからいえることは、

城山の周囲の山麓には広くササが分布しているのでそこらには広くゴイシが分布しているのではないかと思う。

長良山の南の山にはササが山頂まで自生しているのでそこにも産しているのではないかと思う。

しかし今後の調査によるが何分高校にはあってからいっぽんに忙がしくなつたので。

(前田昌四雄)

### オオクチブトカメムシに訂正

筆者が本誌No.1.2, No.9, P.96 に那岐山での採集記録として *Picromerus lewisi* Scott クチブトカメムシと報告した種は後に *Picromerus flavannulata* Stål オオクチブトカメムシであることがわかつたのでこゝにお詫びし、訂正する。御同定を賜った農業技術研究所、長谷川仁先生に厚く感謝の意を表する。

(小野洋)

### 黒坂～花見間でアシアカカメムシを記録

筆者は、去る 61.8.4 小野、青野両氏と共に伯備線黒坂駅より入山若狭峠を越えて花見(千崖)バス停留所に至るコースの途上で、本種 *Pentatomus rufipes* Linne アシアカカメムシを採集したので報告します。同定には、保育社原色日本昆虫図鑑下を参照したが、本種について「体長 1.4mm 内外、日本全土の山地に産するが稀で、シベリア、欧洲にも広く分布する」と記されている。

(近藤光宏)

### 目録にカシルリオトシブミを追加

先に報告した「岡山県下のオトシブミ科」(本誌 Vol. 1.0 No. 2, 3, 4, P. 14) の目録に次の種を追加する。

12. *Euops splendida* Voss カシルリオシブミ 成羽(lex, v-14, 1961)

(小野洋)

### シリアゲコバチの記録について

本種 *Leucospis japonica* Walker シリアゲコバチは本邦に知られる二種類のシリアゲコバチ科に属し、ハキリバチ数種に寄生する。極めて特異な形態をした種として知られている。

これまでに

倉敷市藤戸(山本), 50.VI.1 ♀ 1頭  
(筆者所蔵)

の様に 11 年前の記録があるが、筆者は今年二度の本会採集会に参加して、それぞれ記録できたので報告致します。

児島郡タコラ山 '61.VI.11 ♀ 各 1頭

高梁市上神崎 '61.VI.18 ♂ 1頭

なおタコラ山では、参加された他の会員の方も記録されていたようである。

(近藤光宏)

総社市のアオサナエ

大佐町定藤でオオツノトンボ  
を採集

筆者は定藤から新庄へ抜ける峠で薄暗い  
草むらから飛び出したオオツノトンボ  
*Protodicerus japonicus* 1  
個体を採集したので報告しておきます。な  
お本種はすずむし Vol. 10, No. 2, 3, 4月お  
としぶみの赤枝氏によると「かなり稀」と  
のことです。

採集日 1961年8月1日(曇)朝  
(秋山博志)

1961年5月6日、総社市井山に於てア  
オサナエ *Nihonogomphus viridis*  
1個体を採集したので報告しておきます。  
保育社の原色日本昆虫図鑑(下)によると  
「少ない」となっている。

(秋山博志)

総社市八代におけるハツチヨウトンボのその後

近藤光宏

1960年8月11日台風11号の接近で、東寄りの風が強く上空をちぎれ雲が急がしく飛んでいる。こうした天候を気付かいでながら、本会員小野(義正)河辺両君にさそわれて、案内がてら、その途酒津へやって来た。いつもは勢いよく放出している水門も厳重に閉切られ、増水に万全をきしている。疊ほどに溜まっている水面をギンヤンマ、その少し上をナツアカネが多数たわむれている。付近の子供達は台風のことなどよそに魚取りに無中である。今日は筆者の誕生日でもあり、その頃の生活がしのばれてなつかしい。3人は自転車をとばして小黒田・黒田・河辺橋を通って神在村に入る。このあたりから山相がにわかにハッチャウトンボ発生地の相を呈して来る。当地へ採集にやって来たのは、今から8年前、滑音から徒歩で友野、小野、背野三氏を案内して以来のことである。近道をと思いかえって道を迷い、いつも通る池の南側に出る。そこから目的の地点までは同一水系を登って15分位であるが、同地点から約100m手前の湿地でまず小野君が1♀を得た。これで8年来たえることなく生息していたことを確認した。むしろ繁殖しているといつてよい。両君はそれからも付近で数個体、筆者も1♀1♂を記録した。

なおこれまでの本誌にけいさいされている本種に関する文献をひらってみると、  
Vol. 1, No. 8, ハッチャウトンボの記録第一号

総社市八代

筆者

Vol. 3, No. 6, ハッチャウトンボの一産地

浅口郡遙照山

小川大右

Vol. 5, No. 9, 山手村のハッチャウトンボ

安江安宣

なお、今年度児童生徒発明工夫科学作品展展示会(倉敷市)会場で浅口郡遙照山の記録  
がみられた。

## 「くわがたむし」

赤枝一弘

高校以来筆者は主として蝶を採集して来たが、幼年時代に最も魅力を感じた虫は蟬とカブトムシとクワガタムシであった。特に後二者は我々の故郷（西大寺）では手に入らぬ昆虫だった。それでもカブトムシの方は前にも（向州と昆虫）で書いたことがあるが稀には手に入った。一度親戚でもらったカブトムシを大切に飼っていて、それがある日、目の前でひもを切って夕闇せまる町の中へ飛び立ってしまった時には我を忘れて夜の町をさまよったのをおぼえている。これ等の虫の多い地方に育った人にとてはまったくかけいなことだろうが、クワガタムシ等はまったく絵の上だけで見る夢の虫だった。現在の土地（大佐町）に赴任してすでに4ヵ月がたったが、こゝは思ったより虫相は貧弱であるが、さすがに各種のクワガタムシを子供達はとってくるので、自分の事と思いくらべてこんな文を書いてみる気になった。小学生時代を通してついにクワガタムシを見る機会はなかった。始めて生きたこの虫を手にしたのは中一の時友達にコクワガタの雄をもらったのが最初だった。これはずっと死ぬまで飼い死んでからは標本にしたが、現在は残っていない。このコクワガタのことをこのあたりの子供は語源は分らないがズイキという。しかし中学時代はそこまで後は高校になる。高一の時始めて近所の山でコクワガタを自分の手で採集してこの虫が我々の近くでも採れることを知った。統いて知合った本会員の大森氏から大ケ島産の見事なヒラタクワガタをもらった時はうれしかった。統いて彼の案内で自分でも採集した。又この当時京都の友人からチビクワガタをもらった。統いて竜の口山でネブトクワガタを採集した。そして高校卒業までに遠征で湯原その他で採ったスジクワガタを加え手にしたクワガタムシの種類は五種を数えた。しかしクワガタムシ中もっとも見事でしかも山地では個体数も多いミヤマクワガタを始めて手にしたのは大学一年の時旅行中偶然にも友人が松山駅で採ったのをもらった時だった。子供はこの種をカブトムシと呼ぶが、本当にカブトムシと呼ぶにふさわしい見事な大あごである。（この子供は本当のカブトムシのことは雄をじいさん、雌をばあさんと呼ぶ）実際この種は当地でも大山等でもクワガタムシ中一番個体数が多いぐらいたが、南部ではめったにお目にかかるない虫である。次いで大学三年の大山遠征で燈火に飛来中を探ったアカアシクワガタと登山道路でつぶされていたオオクワガタを標本箱に加えてかなり充実したが、まだミヤマと並ぶ見事な大あごを持つノコギリクワガタがぬけていた。この種はついに探れなかった。今度この地（大佐町布瀬）へ来て始めて見事な本種を何頭か手にすることことができた。この種を子供はアカマツという。まことにわはずかしい記録だが、高山性のルリクワガタもいずれの日にか自分の手で採ろうと思う。

れている小泉憲治先生は、今回ジャガイモガの天敵を求めるなどを主目的として訪米されることになりました。御成功と御健康をお祈りしたいと思います。

## - 編集後記 -

- ★ 1961年も、なかばを過ぎる頃となりましたが、ここにすずむし11巻1号をおとどけ致します。
- ★ 今回は寄せられた原稿が久しぶりに増加、これも会員皆様の活動活発化の反映にほかならないと喜んでいます。
- ★ 8月下旬の夜を二回、K氏宅にて、やっと一人前?になったエンマコオロギの美声を聞きながら、編集いたしましたが、紙数の都合上、次号に回させていただいたものもある始末。早速、次号の編集にとりかからねばと、新幹事連もはりきっている次第です。
- ★ 横本氏の蛾類目録、秋山、前田両氏による毛無山調査など、貴重な努力のたまものと思います。一層、諸氏のご活躍をいのってやみません。

(編集子)